

POCUS の普及と教育におけるオンラインツールの活用

山田 聡

抄 録

Point-of-Care 超音波 (POCUS) の臨床上的有用性が広く認識されるに従い, POCUS の普及と教育が今後の大きな課題であると考えられるようになってきた. POCUS の普及と教育のためには, 講義, ハンズオン・トレーニング, 画像判定の経験の3つを中核要素とするトレーニング・プログラムを構築することが推奨されている. 病院内で複数の診療科や部署からの多職種チームが協働し, また, 地域において複数の病院間で協力して POCUS の教育を行う際に, オンラインツールを有効に活用することが望まれる. 私たちは, 講義を提供し, 典型的画像や頻度の高い症例を呈示し, 動画を送付して双方向の質疑を行うことができるオンライン教育システムを試作したので, これを紹介し, POCUS の普及と教育におけるオンラインツール活用の将来性について考察したい.

Possibilities of online communication tools for dissemination and education of point-of-care ultrasound

Satoshi YAMADA

Abstract

As the clinical significance of point-of-care ultrasound had been widely recognized, dissemination and education of point-of-care ultrasound became increasingly viewed as an important future issue. For dissemination and education, it is recommended that a training program including three core components be established: didactic education, hands-on image acquisition, and image interpretation experience. When working with a multidisciplinary team consisting of members from different departments in each hospital, and when medical institutions in the region collaborate on developing the educational program, it is deemed desirable to make effective use of online communication tools. I will outline a prototype online educational system we recently developed, in which lectures, representative ultrasound images, frequently encountered cases, and a question and answer site with bidirectional video transmission will be provided, and discuss the possibilities of online communication tools for dissemination and education of point-of-care ultrasound.

Keywords

point-of-care ultrasound, education, training, online tool, communication

1. はじめに

従来, 領域ごとに行われてきた系統的超音波診断法は, その特性としての機動性, 簡便性とリアルタイム性のために, 規模の大小にかかわらず多くの医療機関に導入され, 多様な臨床の場面で活用されている. 加えて, 近年, 救急・集中治療領域で Point-of-Care 超音波 (POCUS) が急速に発展し, 超音波検査に携わる医師の診療科が拡大しつつある. このような検査実施範囲の広がりや検者の多様性は, 小規模施設では利用されない CT や MRI とはまったく異なる特徴である. さらに, 超音波診断には, 元

来, 優れた技術と領域ごとの高い専門性が必要であり, 結果や判定に客観性が担保されにくい特性があるので, 診断の質は検査者の力量に大きく依存する. このように精緻な診断法について, 上記の様な状況の中で, 多様な職種や診療科で構成され, 地域に分散した莫大な数の検者を対象として, 幅広い検査機会と検査目的に応じた教育を目指さなければならない点に超音波診断法の特殊性があり, 普及・教育を困難にする要素であると考えられる. すなわち, 多様な専門領域の検者がそれぞれの立場で必要とする臨床場面に合わせたきめ細かい教育が要求される. このような特殊性を有する超音波診断法の教育にあ